



送 付 状

所 長		管 理 者	担 当 者
森 重 勝		宗 田	佐 藤

平成22年4月21日

会 員 各位

NPO 法人 福島県認知症グループホーム協議会

会 長 森 重 勝

960-1241 福島市松川町字産子内1-1

TEL 024-567-5800 FAX 024-567-5802

(計 1 枚 送信票含む)

グループホーム火災に関するNHK 総合テレビでの放映について

今回の札幌市での火災を受け、NHK 総合テレビで火災に関する報道番組がありますので、ぜひご覧いただきたいと思います。

また、会員の皆様にご覧いただきたいテレビ番組等の情報がありましたら、これからも事務局までご連絡をお待ちしております。

『追跡!AtoZ』 NHK 総合テレビジョン

2010 年 4 月 24 日 (土) 午後 10 時 25 分～11 時 8 分

“老いの家”をどう守る? ～繰り返すグループホーム火災～

(※ナイター中継のため放送時間が遅れることがあります)

今年3月13日未明に発生し7人が亡くなった札幌市の“認知症高齢者グループホーム”「みらいとんでん」の火災。大きな法令違反はなかったこの施設で、なぜ、多くの高齢者の命が奪われる結果となったのか?

グループホームとは、“特養”などに見られる大規模施設とは大きく異なり、5人から18人程度の少人数の認知症高齢者が介助スタッフに支えられ暮らす「共同住宅」である。家庭的雰囲気だからこそ認知症の改善が望めるという理念から民家をそのまま再利用したものも多い。275㎡未満の小規模なものには、通常の住宅同様、スプリンクラーの設置義務もない(「とんでん」は247㎡)。認知症高齢者の心の平安を最重要視する「家」という考えが関心を呼び、その数は現在約1万カ所にまで急増。国も“認知症対策の切り札”、“地域に必須の理想的施設”と位置づけてきただけに、今回の火災の衝撃は大きい。さらに、平成18年に長崎県大村市で発生し、やはり7人が亡くなったグループホーム火災の教訓がなぜ生かせなかったのかという疑問も浮かび上がっている。

「とんでん」の火災の背景を徹底追跡しながら、誰もが関わる可能性がある「ついの住処」の安全を考える。